

アンケートに見る本音と建て前

2680 地区 PDG 田中 毅

源流の会では、今後のロータリーの歩むべき道を探るために、大規模なアンケート調査を行っており、既に160人以上の方から回答を頂いています。その中に、本音と建て前の上から、ロータリアンとしては答えにくい幾つかの設問を含めてみましたので、その中間結果をご披露いたします。

日本人のDNAの中には集団で農耕作業をした古い記録が刻み込まれています。共同生活を円滑にするには、他人と調和しようという行動と、他人からどう思われているかを気にする行動を併せ持つ必要があります。

人と調和しようという気持から、他人のことを思い遣る気持、即ち「おもてなし」の心が生まれます。他人の眼を気にする気持からは、自らを強く主張しない行動や、本音と建て前を使い分ける行動が生まれます。

その本音と建前と言う見地から、ロータリーのアンケートを分析してみました。

設問 15 ロータリーはあなたの時間を多く奪うと思うか

ロータリー活動に専念すれば、その分だけ多くの時間を取られることは当然です。しかし、そうとは思わないという回答が74%を占めました。更にその回答を寄せた人の大部分は、在籍年数の長い人、役職経験者でした。従ってこの回答からは、ロータリー活動をしなかったから、多くの時間を取られなかったのではなく、ロータリー運動に傾注すると、当然多くの時間をとられますが、それは当然のことであり、それが時間を奪われたとは感じていないことを意味するものと解釈されます。

設問 24 ロータリアンが事業に取り組むスタンスは

「自らの事業の関連者に対する奉仕」という模範的回答が63%を占め、「自らの事業の利益」という回答は35%でした。自らの事業の利益を求めて事業を営まない経営者はいないはずですが。そう考えていても、ロータリアンの立場からは、そう答えられないのです。これは、本音と建て前を使い分けている典型的な例です。

ロータリアンとしての正しい答えは、どちらでも良いのです。何故ならば、ロータリーの職業奉仕理念は、自らの事業の関連者に対する奉仕をすれば、結果として自らの事業の利益に繋がるからです。

設問 33 自らが所属する組織にロータリーの奉仕理念を伝えているか

決議 23-34 や社会奉仕に関する1992年の声明には、「ロータリーの目標を達成するために、自らが所属する団体やその他の団体と協力する」ことが明記されています。しかし現実には、自らの職場で、ロータリーの奉仕理念を説くことは、雰囲気的にも難しいことでしょう。自分の日常の行動や態度から、間接的にロータリーを理解して貰うしかないでしょう。回答も「難しい」が70%を占めました。

設問 34 あなたにとって、ロータリーと所属団体とどちらが重要か

当然のことながら、「所属団体」が多数を占めましたが、30%の人が「ロータリー」と答えたのが意外でした。これも本音と建前の回答であって、自らの職場を放棄してロータリーに専念することはあり得ないと思います。この設問自身にも問題があり、「双方」という選択肢を設けるべきだったと思います。

設問 35 積極的に新クラブを設立すべきだと思うか

賛成15%、反対85% 拡大の必要性は分かるが、もうこれ以上拡大の余地はないというのが本音だと思います。

設問 36 積極的に女性会員を入会させるべきだと思うか

賛成 65%、反対 35%という結果でした。詳しく反対理由を書いて、強く反対する人も多数見受けられました。結局これもクラブ自治権の問題であり、女性の入会を望まないクラブに強制することはできません。同じテリトリー内に女性を受け入れるクラブがあれば、そのクラブに入って貰うのも解決法かも知れません。

注1. アンケートの数字は最終結果ではありません。

注2. 最終締め切りは9月30日です。まだの方は至急提出してください。